

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和4年度農作物病害虫発生予察情報について

令和4年度農作物病害虫発生予報第7号を公表したので送付します。

令和4年度農作物病害虫発生予報第7号

令和4年8月1日
徳島県

I. 普通作物

普通期水稲

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第5・6半旬の巡回調査では、葉いもちの発生圃場が47.8%、発病度が4.1と、平年(52.4%、4.9)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月28日に公表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生の多い圃場では、出穂直前までに薬剤防除を行う。また、出穂後曇雨天が続いた場合は穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が39.1%、発生株率が9.6%と、平年(46.3%、10.3%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月28日に公表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況は圃場によって大きく異なるので、今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し、上位葉へ薬剤がかかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が21.7%、株当たり寄生虫数が0.02頭と、平年(60.3%、0.24頭)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が7月28日に公表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.1%、株当たり寄生虫数が0.0頭)。
- (2) 高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等) (8月1日付けで技術情報を発表)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第5・6半旬の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、23地点のうち19地点で生息を確認した。捕獲地点率が82.6%、地点当たりの捕獲虫数が16.5頭と、平年(68.4%、6.9頭)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10~15日前までに除去・処分する。しかし、出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が8.7%、被害株率株が0.4%と、平年(12.3%、0.7%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 現在葉巻内で加害している老齢幼虫に対しては薬剤の効果が高いので、次世代の若齢幼虫を対象に防除する。
- (2) 過肥田や肥料切れの悪い湿田で多発する傾向があるので、窒素質肥料の施用は控えめにする。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第6半旬の巡回調査では、食葉性害虫による被害発生圃場率が100%、葉の被害度が23.2と、平年(97.9%、18.4)並の発生である。
- (2) 7月のフェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺数は、平年に比べて少なく推移している(図1)。また、シロイチモジヨトウの誘殺数は、平年並に推移している(図2)。

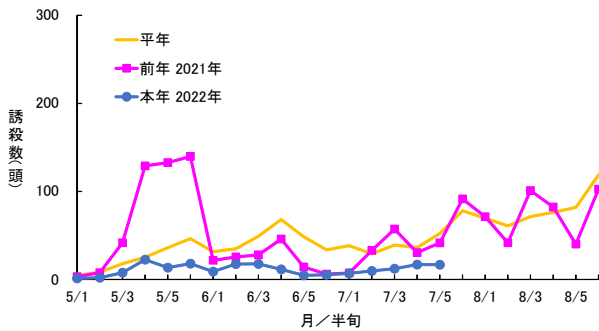


図1 ハスモンヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)
*徳島市、鳴門市、松茂町の4地点平均

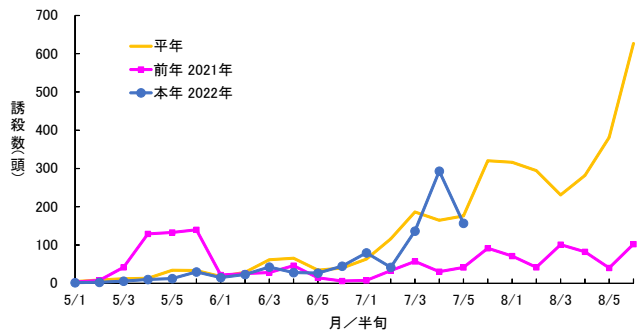


図2 シロイチモジヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)
*徳島市、鳴門市、松茂町の4地点平均

(3)高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫時に徹底防除を図る。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)7月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%と、平年(11.0%)に比べてやや高いが、寄生葉率は(0.4%)と、平年(0.9%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、葉裏まで薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

II. 果樹

カキ

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1)7月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、発病葉率が13.5%と、平年(76.7%、10.5%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)今春、病斑の目立った園および多発生園では、防除を徹底する。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等) (7月8日付けで注意報発令中)

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2)予報の根拠

(1)7月の予察灯調査において、勝浦町での誘殺数は、ツヤアオカメムシでは平年に比べてやや少なく推移しているが、チャバネアオカメムシは、平年に比べて多く推移している。一方上板町では、各種カメムシともに平年に比べて多く推移している(表1)。

表1 果樹カメムシ類の予察灯による誘殺数推移

| [ツヤアオカメムシの誘殺数] | | | | | | | | [チャバネアオカメムシの誘殺数] | | | | | | | |
|----------------|----|-------|-------|-----|-------|-------|----|------------------|----|-------|-------|-----|-------|-------|----|
| 月 | 半旬 | 勝浦町 | | | 上板町 | | | 月 | 半旬 | 勝浦町 | | | 上板町 | | |
| | | 2022年 | 2021年 | 平年 | 2022年 | 2021年 | 平年 | | | 2022年 | 2021年 | 平年 | 2022年 | 2021年 | 平年 |
| 7 | 1 | 17 | 11 | 43 | 43 | 9 | 17 | 7 | 1 | 249 | 20 | 31 | 2134 | 29 | 33 |
| | 2 | 33 | 4 | 41 | 52 | 2 | 16 | | 2 | 485 | 0 | 26 | 782 | 1 | 65 |
| | 3 | 9 | 0 | 52 | 13 | 0 | 11 | | 3 | 264 | 0 | 27 | 316 | 4 | 55 |
| | 4 | 30 | 3 | 56 | 22 | 122 | 11 | | 4 | 640 | 4 | 26 | 487 | 43 | 76 |
| | 5 | 18 | 6 | 60 | 15 | 7 | 7 | | 5 | 241 | 5 | 27 | 170 | 9 | 39 |
| | 6 | | 27 | 106 | | 5 | 11 | | 6 | | 13 | 54 | | 14 | 39 |
| 8 | 1 | | 95 | 151 | | 12 | 5 | 8 | 1 | | 17 | 75 | | 13 | 16 |
| | 2 | | 79 | 159 | | 68 | 14 | | 2 | | 17 | 107 | | 83 | 23 |

(2) 高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

III. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%と、平年(32.9%)に比べてやや低いが、発病葉率は0.1%と、平年(1.7%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 落葉した罹病葉は適切に処分する。
- (3) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液が弾かれ防除効果が劣るので、展着剤を利用する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%と、平年(7.4%)に比べてやや高いが、1葉当たりの寄生虫数は0.1頭と、平年(0.1頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏まで薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が57.1%、寄生葉率が4.6%と、平年(33.5%、3.1%)に比

べてやや高い。

(2)高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は大半が葉裏に寄生しているため、防除の際には、葉裏まで薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

- (1)7月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が28.6%、寄生葉率は0.3%と、平年(58.5%、3.1%)に比べて低い。なお、被害果実の発生圃場率は57.1%、被害果率は4.6%と、平年(20.6%、2.0%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので、散布むらのないように丁寧に散布する。
- (2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

オオタバコガ

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)7月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、産下卵確認圃場率が39.9%、100葉当たり平均卵数が0.6)。なお、幼虫による被害果実の発生圃場率が28.6%、被害果率が0.4%と、平年(3.7%、0.1%)に比べて高い。
- (2)7月のフェロモントラップへの誘殺数は、平年に比べてやや多く推移している(図3)。

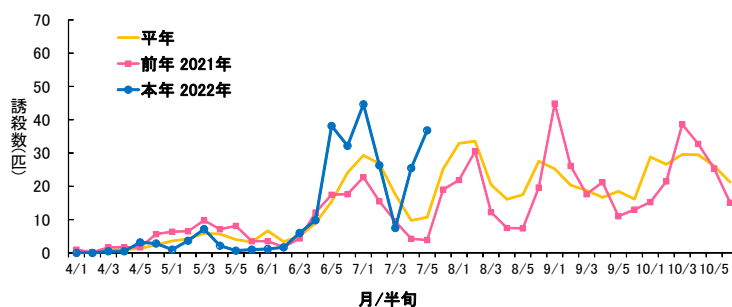


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市・三好町・東みよし町・石井町の6地点平均

(3)高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)被害部位(果実、花蕾)や剪定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるため、圃場外に持ち出して適切に処分する。
- (2)果実や茎、花蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するため、若齢幼虫主体の時期に薬剤防除を行う。
- (3)本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵する。野外での卵期間は3日程度であり、今後、8月上旬にも幼虫の発生ピークが来ると見込まれる。その後多い状態が続くため、防除適期を判断しづらくなる場合もあるので、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

秋冬ネギ

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少なく)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 7月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、被害度が2.9と、平年(55.8%, 1.9)と平年並の発生である。

(2) 高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 7月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生株率が1.1%と、平年(26.9%, 1.1%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、被害度が0.4と、平年(86.7%, 8.1)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

IV. その他

1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。

2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

3) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

予報内容の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。